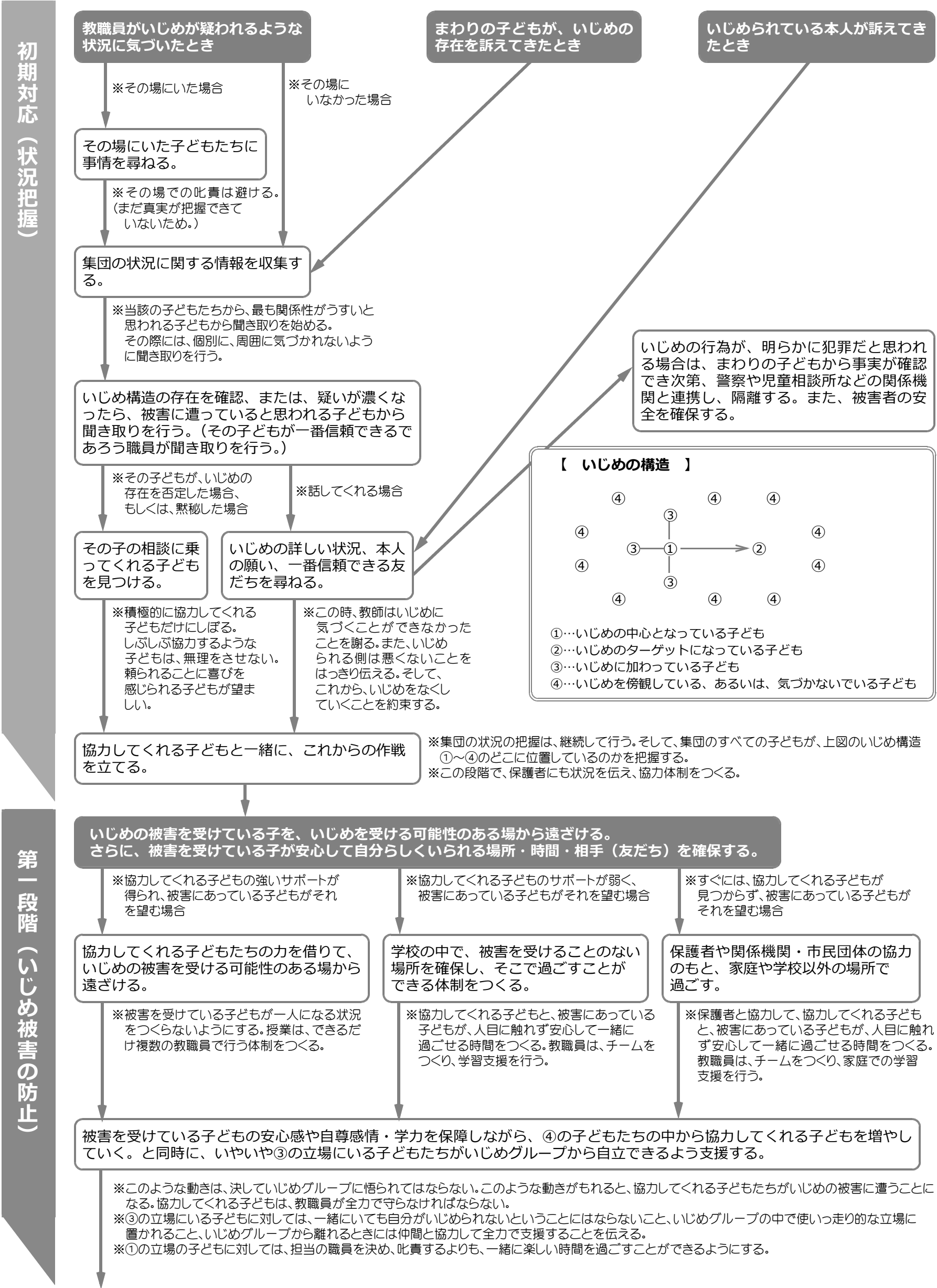
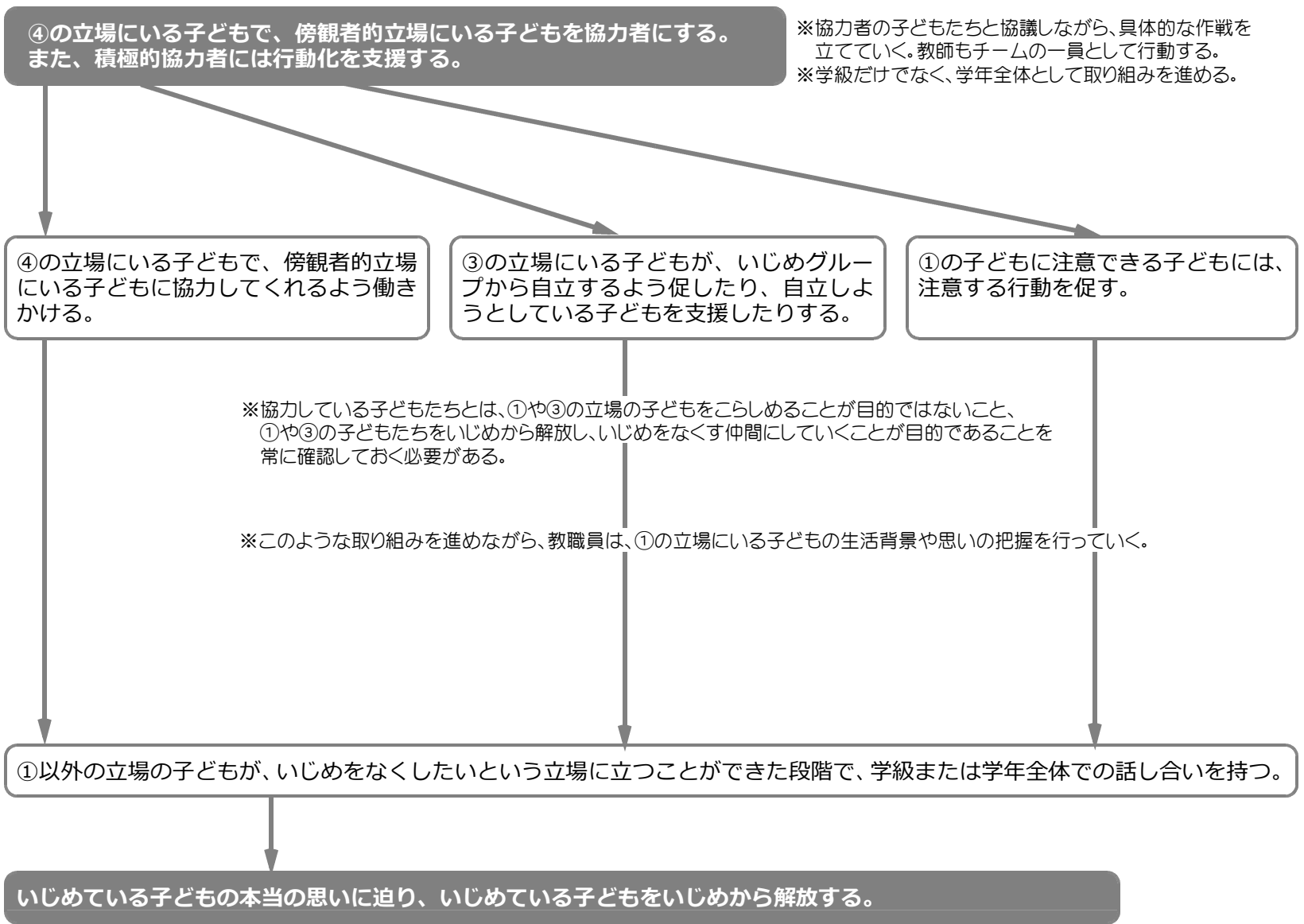


いじめ対応フローチャート



第二段階（まわりの子どものエンパワメント）



第三段階（いじめている子どもを解放する）

【 話し合いの進め方の例 】

- 「A：自分たちの集団の中で起こっていたことは何か」
「B：その中で自分はどのような立場にいて、どのような行動をとっていたか」
「C：その自分の行動に対して今、どう思っているか」
「D：これから自分はどのように行動していくか。」 を全員が綴る。
- Aに綴ったものをもとに、まず集団の中で起こっていたことを確認する。
- B・C・Dについて、語り合う。
- ①の立場にいる子どもを責めるのではなく、いじめの罠から助けたいことを伝え、①の立場にいる子どもに迫る。
- いじめている子どもの本当の思いや願い・つらさを共有する。

※この段階まで到達できれば、真にいじめが解決したと言える。しかし、いじめている立場の子どもが心を開くのは難しいケースが多い。だが、第1段階がクリアできれば、いじめられている子どもの命を守ることができる。第2段階までクリアできれば、子どもたちの中に実体験に基づいたいじめを乗り越える力が育ち、再発を防げる可能性が高まる。教職員集団の見通しとして、第3段階までを見据えておくことが重要である。

※いじめている側の子どもが真に解放されるためには、その子どもとの信頼関係づくりとともに、家庭や関係機関・団体との連携が必要になる場合も出てくる。そのような場合には、学校として責任を持って支援にあたらないと、いじめを再発させることにつながる。